

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 小 林 洋 司 会員数 約1,000人)

T E L 03-3723-9970

1 前 文

出題内容は、高等学校学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいおよび内容におおむねそくしており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問・難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか、さらに習得した知識を活用することができるかを問う形になっている。若干、本試験より難しくなった印象がある。問題作成には多くの困難があったものと推察される。基礎的基本的な知識は何かを確認すること、その基礎的基本的な知識を問うにあたり単なる知識の有無に終わらない出題を工夫すること、さらに思考力や判断力を問うこと、一定の平均点を確保すること、試験実施時間内にひととおり解き終わること、高校生へのメッセージを託すこと、大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持することなど、出題者の努力には敬意を表するものである。来年度以降も、現在の水準を維持するだけでなく、さらに良質な問題を出題することをとおして高校生に学ぶことの意義や大切さを伝えるだけでなく高校生の「学び」に役立ててもらえるよう、高等学校で公民科を与える立場から意見を申し述べたい。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問数4、解答数37からなる全体としては、質、量ともに標準的な良問といえる。青年期・現代思想分野、源流思想、静養近代思想、日本思想とバランスよく出題されている。高等学校学習指導要領に準拠した「倫理」の出題としてふさわしい。極端に偏った知識や専門用語を問うこともなく、広い視野に立って基礎的基本的な知識から思考力や判断力、資料読解力に至るまで幅広い学力を問う。各大問にリード文が用意されているのも大切なことである。加えてリード文は秀逸なものが多く、問題文としてだけでなくひとつの読み物として高校生に読ませたい文章である。思想家ひとりにしてもその人物の生きた時代や思想の背景を理解することの大切さが伝わる工夫が見られる。それだけに各小問がリード文を読まなくても解けてしまうのは何とも残念である。選択肢の記述が長めとなっているのは、それだけ考える工夫を意図しているからだろうか。あるいは学習指導要領にある「他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」ことを意識してのことだろうか。基礎的基本的な知識の理解とそれに裏付けられた思考力と判断力を問う問いをバランスよく出題することを今後も心がけてほしい。高度な学問を背景に平易に高校生に語りかける姿勢は高校生にとっては学びの指針ともなるだけに今後も維持されることを期待する。

3 各設問ごとの意見と評価

第1問 科学技術の発達にともなって可能となったデザイナーベビーをテーマに高校生とその親との平易な会話文から現代に特有な生命倫理の問題について考えつつ、青年期や現代社会分野に関する問題を解く。

問1 オゾン層の破壊とフロンガスの関係を問う。環境倫理というよりは「現代社会」の地球環境問題。もっともこのレベルなら中学校受験する小学生でも正解が得られるだろう。

問2 自然科学の発達と自然観の変遷について、近代以前の目的論的自然観から近代以後の機械論的自然観への転換を高校生に示しつつ、ガリレイとケプラーについての基礎的基本的な知識を問う。

問3 今日の日本の状況について問うが家庭科の出題ともいえ「倫理」で問うことかどうか。

①③④は法的根拠に基づくが②は統計数値の暗記を求めており、選択肢4つとも法的根拠に基づくものに揃えるか、データの読み取りとして揃えた方がよい。循環型社会形成推進基本法、バリアフリー新法、男女雇用機会均等法の内容を問うことは現代社会の課題考える上で大切なことはまちがいないところだ。

問4 コミュニケーションに関するグラフの読み取りの問。読み取りそのものは平易だが昨今の高度情報社会において高校生が犯罪に巻き込まれたりネット中毒に陥ったりする状況を鑑みれば優れて教育的な配慮がなされた出題である。

問5 生命倫理から生殖技術をめぐる状況を正しく認識しているかを問う。やや細かいことを問うものの、半ば常識で判断できるだろう。

問6 幸福と不幸をキーワードとしてベルクソン、シモーヌ・ヴェイユ、エピクテトス、有島武郎を問う。4人とも授業でも必ず扱う人物というわけではなく教科書でも取り扱われていない人物だけに難しい。

問7 エリクソンの半生をたどりつつフロイトとアンナの精神分析、エリクソンのライフサイクル、リースマンの他人指向型について問う意欲的な問。フロイトとアンナの周辺の出来事は教科書でも取り扱われていないだけに難しいが、思想家がいかに生きいかに考えたかを学ぶのが「倫理」だということを高校生に伝えた意義深い良問となった。

問8 ピアジェは授業でも必ず扱う人物というわけではなく教科書でも取り扱われていない人物だけにやや難しい。教科書で取り扱われている内容で正解は得られるが、組み合わせで考えるという点ではパズルのようでもある。

問9 資料を読みフーコーの考える人間の主体性について考える問。教科書レベルは超えており資料集まで読み込んでいなければ難しいかもしれないが、思考力と判断力を問う優れた問である。

問10 本文の内容に合致した記述を選ぶ思考力と判断力の問。選択肢の文章は平易でよく練られている。

第2問 知ることの意義について考察させる文章を読み、源流思想を問う。基礎的基本的な知識とそれに基づく思考力と判断力を問う。リード文は読みやすくまとまっており、大学での学問を志す高校生への熱いメッセージになっている。学問の道が単なる知識の集積ではなくよりよ

く生きるための道として進んでほしいという最終段落での作題者の思いに高校生は鼓舞されたことだろう。

問1 儒家の思想と対比しながら中国思想を考える問。授業でも扱う内容であり教科書でも取り扱われている記述でもある基礎的基本的な知識で正解が得られる。知識を問う場合も、この問で試みられたようにテーマに沿った複数の空所とすることで高校生の知識の定着をより正確にはかれることだろう。

問2 イスラム教における神についての基礎的基本的な知識を問う。ただし、イコンは「世界史」の分野であり「倫理」の問題としては出題しない方がよいのではないか。イスラム教がユダヤ教やキリスト教と同じ神を信じる一神教ということは意外と思う高校生は少なくないだけに確認する意味のある問だ。

問3 新約聖書からの読み取り。資料文の読解に基づきパウロの思想を問う思考力判断力の問でキリスト教への理解は深まる良問。ただし、パウロの思想はなかなか難しいので、割り切った問題ははたして適当かは疑問である。

問4 知ることと実践との関係をジハード、王陽明、ガンディー、プラトンから考える問。授業でも扱う内容であり教科書でも取り扱われている内容でもある基礎的基本的な知識で正解が得られる。

問5 アリストテレスの著作についての正確な知識を問う。

問6 ソクラテスと「知」についての基礎的基本的な問。

問7 ブッダの教えから四法印についての知識を問う。授業でも扱う内容であり教科書でも取り扱われている平易な問。

問8 「知」について、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、孟子、六波羅蜜についての知識を問う。六波羅蜜は細かすぎるのではないか。時代や場所を越えてひとつのテーマでまとめる作業は高校生にとって重要だが難しい問である。

問9 本文の内容に合致した記述を選ぶ思考力と判断力の問。選択肢の文章は平易である。

第3問 他者との関わり方について時代毎の思想を考えるわかりやすいリード文で日本思想を概観する。他者とどのように共同して生きるのかというテーマから展開するリード文としてはやや網羅的で、その分各問で内容を深める工夫を施そうと意図している。

問1 行基の業績を問う。基礎的基本的な知識を問いながらも、人が生きて思想があるという前提に立ち返らせてくれる。

問2 栄西の思想を問う。なぜか栄西は単独で出題されるようだが、比較される文章が平易で無理がない。比較することで単に知識の問とならないように工夫されている。

問3 儒学者の名前を問う一問一答形式の問。出題形式は工夫されてよいのではないか。西川如見は「日本史」の出題領域ではないだろうか。

問4 思想家と思想を組み合わせる標準的な問。中江藤樹と山鹿素行は授業でも扱う内容であり教科書でも取り扱われている内容でもある基礎的基本的な知識だが、山崎闇斎については授業でも扱うことは少なく教科書でも取り扱われることは少ないだけに難しい。

問5 平田篤胤は基礎的基本的な知識にみえるが教科書の記述がそれほど詳しくないので、やや難しいかもしれない。誤りの選択肢が賀茂真淵など代表的な国学者にしてあり正答は容易

に得られる。

問6 夏目漱石の文章を資料で示し近代化の内容を確認する思考力判断力の問。資料の内容は易しく解きやすい。

問7 女性や貧しい人々、社会的弱者についての思想を問う。北一輝、与謝野晶子、平塚らいてう、河上肇を出題する。河上肇の生涯をここまで出題するのは「倫理」とすれば細かい。21世紀に生きる高校生には分かっているという意図か。

問8 戦後思想を知る意味では丸山真男、小林秀雄、竹内好、坂口安吾は重要だが「倫理」で学習する範囲を超える。丸山真男の無責任の体系は容易だが、坂口安吾は教科書ではあまり扱われず坂口安吾『墮落論』は文学史での学習かもしれない。

問9 本文の内容に合致した記述を選ぶ思考力と判断力の問。選択肢が5行に渡る文章は長いのではない。また正誤判定問題になってしまい残念。できるならばリード文全体を貫く芯に迫れる問であってほしい。

第4問 異文化理解をテーマに西洋近代思想を手堅くまとめた平易なリード文から考えていく問題である。高校生なら、リード文を読み、現代社会の諸課題が先哲の思想と有機的につながっていることを理解しただろう。

問1 モンテーニュを問うことは理解できるが、選択肢を見るとルソーと比較させて理解させようとしている。出題の意図が見えない。

問2 ロックの思想を問う標準的な問。社会契約とタブラ・ラサが同列とされることに驚いた高校生も少なくなかっただろう。

問3 功利主義思想を問う標準的な問。やや用語に偏っているところがもう一工夫求めたいところだ。キーワードがそのまま空所補充となっており平易である。

問4 宗教観について問う。キリスト教、神、信仰など難しい内容のように見えるが、キルケゴール、ルター、スピノザ、ウェーバーについての標準的な難易度の問。

問5 懐疑論を扱うことは重要だが、教科書での記述を考えればヒュームもバークリーも記述が少ないので、問題としてはやや難しい。

問6 ニーチェの精神の三様態が問われたが、教科書での記述が少ないだけに、資料文から解ける工夫が求められる出題である。良問であり、資料文の読解から正解は導けるが、高校生には難しい。

問7 選択肢の説明からジェームズ、クーン、ソシュールの思想を選ぶ問。基礎的基本的な知識とはいえ、教科書ではソシュールの記述は多くなく、高校生にはやや難しい。

問8 レヴィナスは授業でも扱うことは少なく教科書でも取り扱われることは少ないだけに難しい。選択肢④の自己意識も教科書での記述はなく、設問とすれば難しい。多くの高校生が消去法により正解を導いたのではない。

問9 本文の内容に合致した記述を選ぶ思考力と判断力の標準的な問。異文化との接触が多くなった現代において、異文化への寛容さ、価値の多様性の容認などの必要性がまとめられている。新たな時代の担う高校生へのメッセージでもある。